

平成 19 年 2 月の地震活動及び火山活動について

[地震活動]

震度 5 弱以上を観測した地震及び津波を観測した地震はありませんでした。全国で震度 1 以上が観測された地震の回数は 87 回、日本及びその周辺における M 4 以上の地震の回数は 67 回でした。

国土地理院の GPS 観測結果では、全国の地殻変動について特に目立った変動は見られません。

震度 3 以上を観測するなどの主な地震活動の概況は別紙 1 のとおりです。また、世界の主な地震は別紙 2 のとおりです。

[火山活動]

噴火が観測されたのは、桜島及び諏訪之瀬島でした。

桜島では、南岳山頂火口で 10 日、13 日及び 16 日に爆発的噴火が発生しました。諏訪之瀬島では爆発的噴火が 5 ~ 7 日、19 日、20 日にありました。

御嶽山では火山性地震はやや多く、火山性微動が時々発生しているほか、御嶽山の地下の膨張を示すわずかな伸びも見られています。御嶽山の火山活動はやや活発な状況になっていますので、山頂付近では注意が必要です。

三宅島では、噴煙活動が活発で、多量の火山ガス放出が続いています。

硫黄島では、国土地理院及び防災科学技術研究所の観測によると、昨年 8 月以降、島北部の元山地域付近で大きな隆起が続いています。

口永良部島では火山性地震及び火山性微動のやや多い状態が続いています。

日本の主な火山活動の概況は別紙 3 のとおりです。また、世界の主な火山活動は別紙 4 のとおりです。

注 1 : 国土地理院の GPS による地殻変動観測については、国土地理院ホームページの記者発表資料「平成 19 年 1 月 ~ 2 月の地殻変動について」を参照ください。

<http://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/2007/goudou0308.htm>

注 2 : 気象庁の地震活動資料には、防災科学技術研究所や大学等関係機関のデータも使われています。

注 3 : 地震活動および火山活動の詳細については、地震・火山月報(防災編)2007 年 2 月号(2007 年 3 月末頃に刊行及び気象庁ホームページ掲載予定)をご覧ください。

注 4 : 平成 19 年 3 月の地震活動及び火山活動については、平成 19 年 4 月 9 日に発表の予定です。

2007 年 2 月の主な地震活動^{注 1)}

番号	月 日	時 分	震央地名	深さ (km)	M	最大 震度	備考 / コメント
1	2 月 4 日	20時59分	千葉県北西部	67	4.3	3	太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界付近で発生した地震
2	2 月 17 日	9時02分	十勝沖	40	6.2	4	太平洋プレートと陸のプレートの境界付近で発生した地震

注 1) 「主な地震活動」とは 陸域でM4.0 以上かつ震度 3 以上の地震、 海域でM5.0 以上かつ震度 3 以上の地震、
M6.0 以上の地震、 以前に取り上げた地震活動で、活動が継続しているもの。

その他の活動^{注 2)}

月 日	時 分	震央地名	深さ (km)	M	最大 震度	備考 / コメント
3 月 7 日	21時59分	秋田県内陸北部	16	4.2	4	

注 2) 「その他の活動」とは、注 1) の主な地震活動の基準に該当する地震で 2007 年 3 月中に発生したものを。

・地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会検討結果

2007 年 2 月 26 日に気象庁において第 249 回地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会（定例会）を開催し、気象庁は「最近の東海地域とその周辺の地震・地殻活動」として次のコメントを発表しました。その後も地震・地殻活動等の状況に変化はありません。

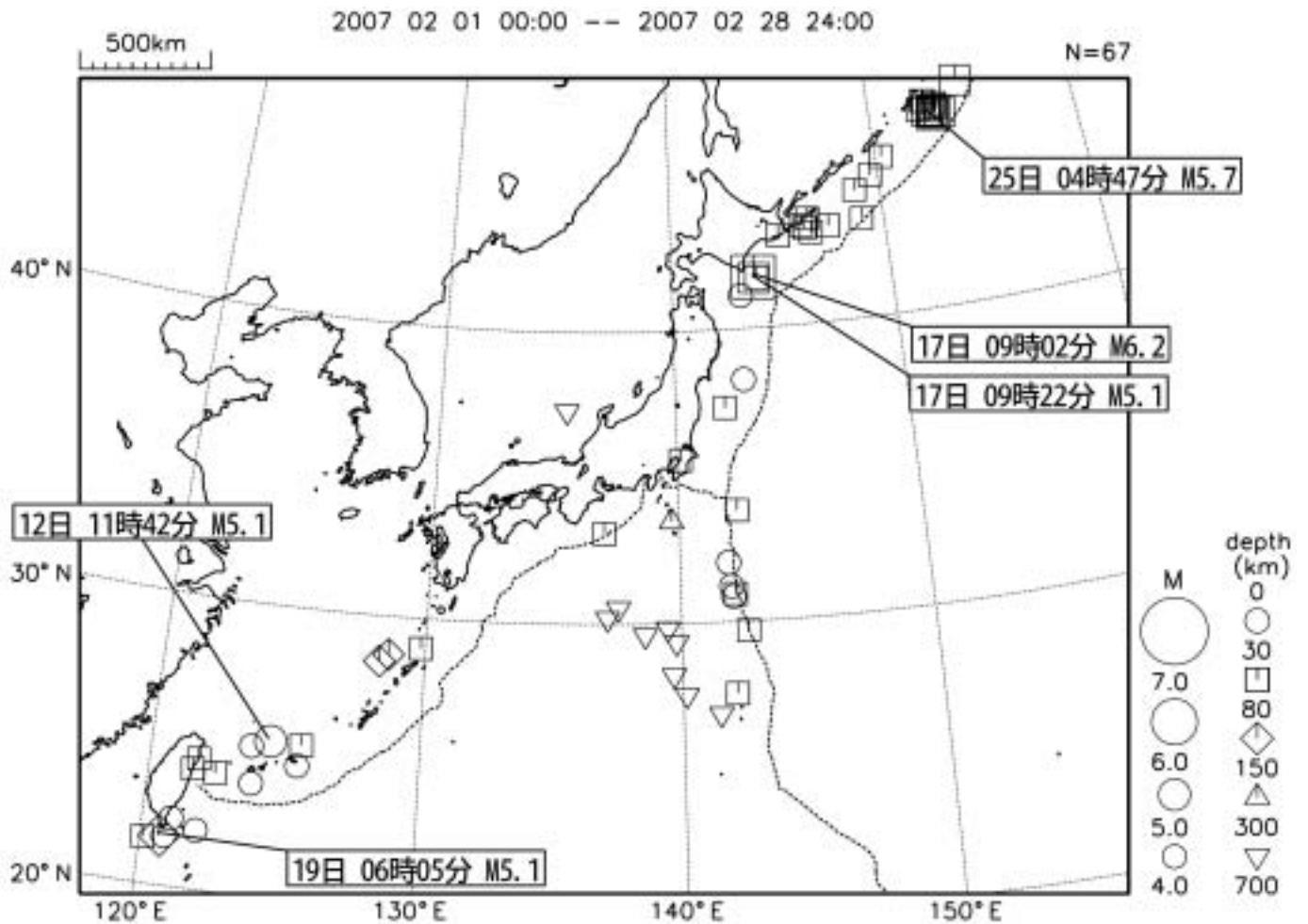
現在のところ、東海地震に直ちに結びつくような変化は観測されていません。

全般的には顕著な地震活動はありません。浜名湖東方から静岡県中部の直下では通常より活動レベルの低い状態になっていますが、その他の地域では概ね平常レベルです。

東海地域及びその周辺の地殻変動には注目すべき特別な変化は観測されていません。

なお、2 月 5 日ごろから同 10 日前後にかけて愛知県でプレート境界の短期的なゆっくり滑りに起因すると見られる地殻変動と低周波地震活動が観測されました。この付近では同様の現象が昨年 8 ～ 9 月にも観測されています。

2007年2月の全国の地震活動 (マグニチュード4.0以上)



十勝沖で2月17日にM6.2の地震があった。

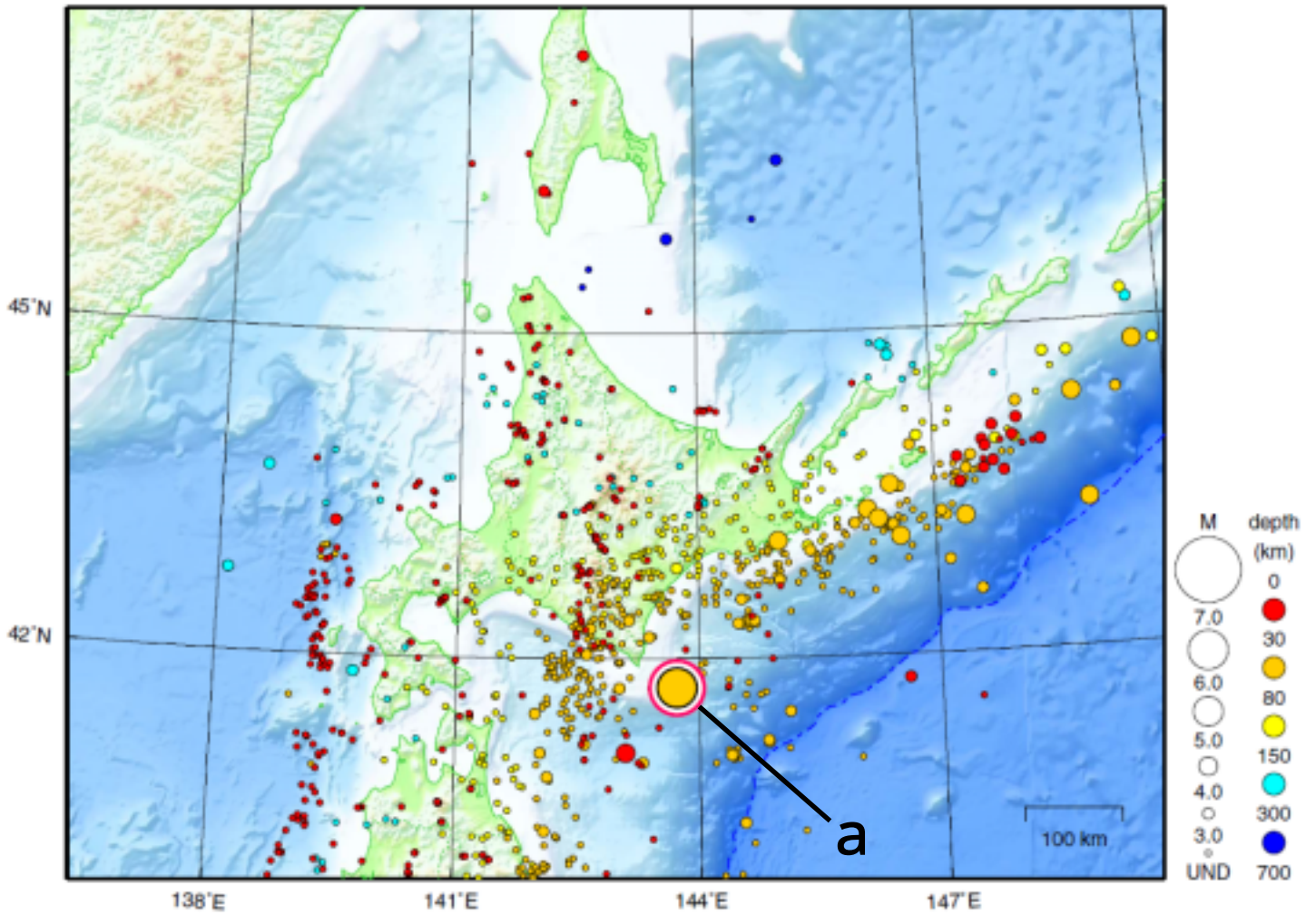
なお、観測網からやや離れているが、千島列島東方で2006年11月15日に発生したM7.9の余震活動が続いており、また2007年1月13日にも千島列島東方でM8.2の地震があったため、M5.0を超える地震が16回観測されている。

[図中に日時分、マグニチュードを付した地震はM5.0以上の地震、またはM4.0以上で最大震度5弱以上を観測した地震である。また、上に表記した地震はM6.0以上、またはM4.0以上で最大震度5弱以上を観測した地震である。]

北海道地方

2007/02/01 00:00 ~ 2007/02/28 24:00

N=1051



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

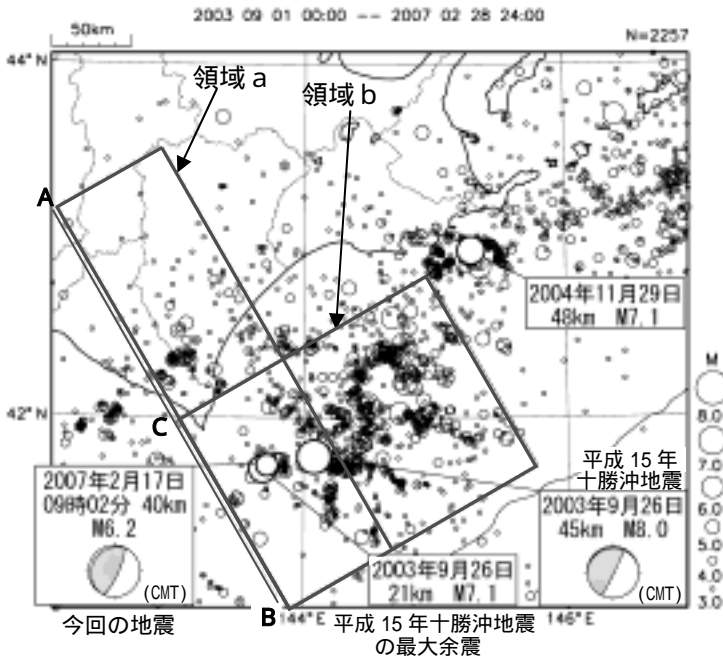
a) 2月17日に十勝沖で M6.2 (最大震度4) の地震があった。

[上述の地震は M6.0 以上、陸域で M4.0 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれかに該当する地震。]

2月17日 十勝沖の地震

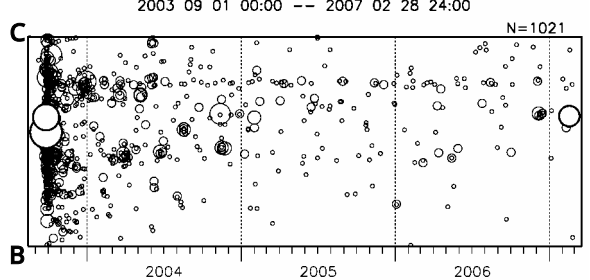
A

震央分布図
(2003年9月以降、深さ0~200 km、M 3.0)

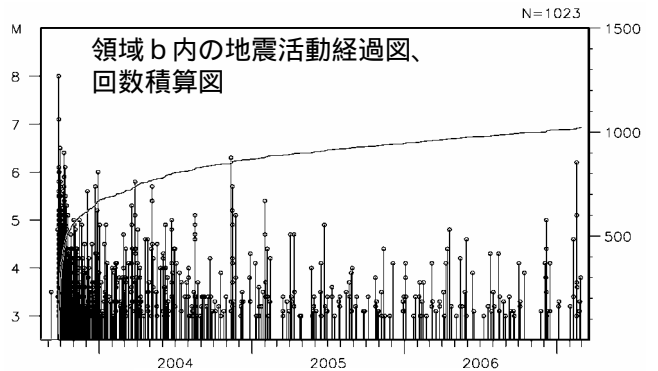
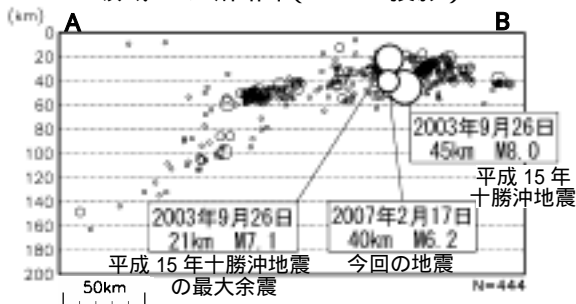


2007年2月17日09時02分に十勝沖の深さ40 kmでM6.2(最大震度4)の地震が発生した。発震機構(CMT解)は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界付近で発生した地震と考えられる。同日09時22分にM5.1(最大震度2)の地震が発生するなど、地震発生直後にはやや活発な余震活動がみられたが、数日でほぼおさまった。今回の地震は、2003年9月26日にM8.0(平成15年(2003年)十勝沖地震、最大震度6弱)の地震の余震域内で発生しており、この地震の最大余震(M7.1)の震央付近で発生している(**A**)。

領域bの時空間分布図(C-B断面)

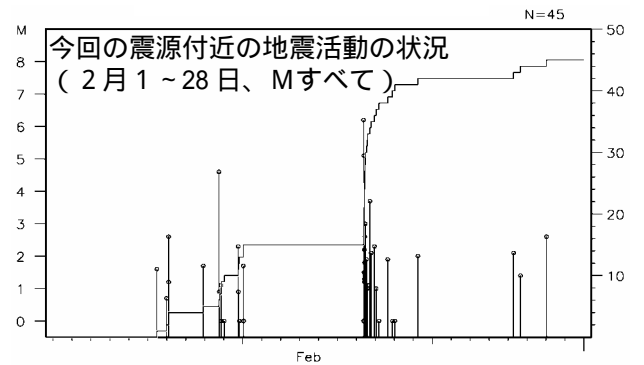
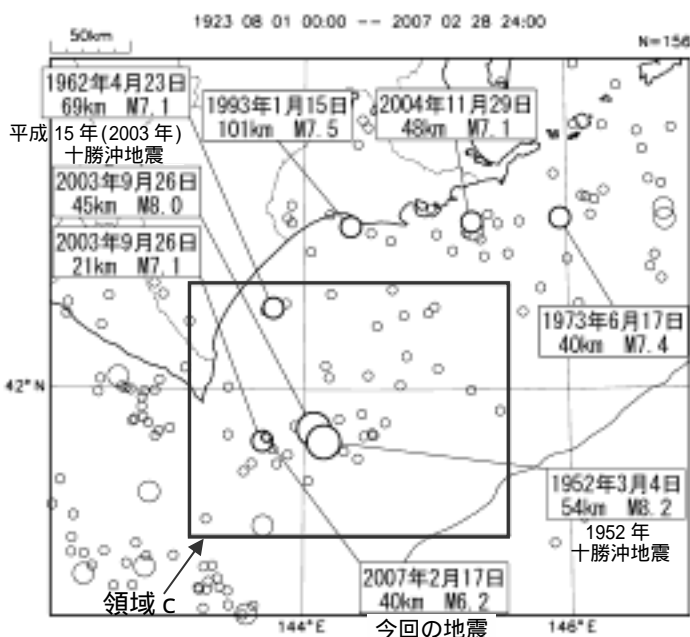


領域aの断面図(A-B投影)



B

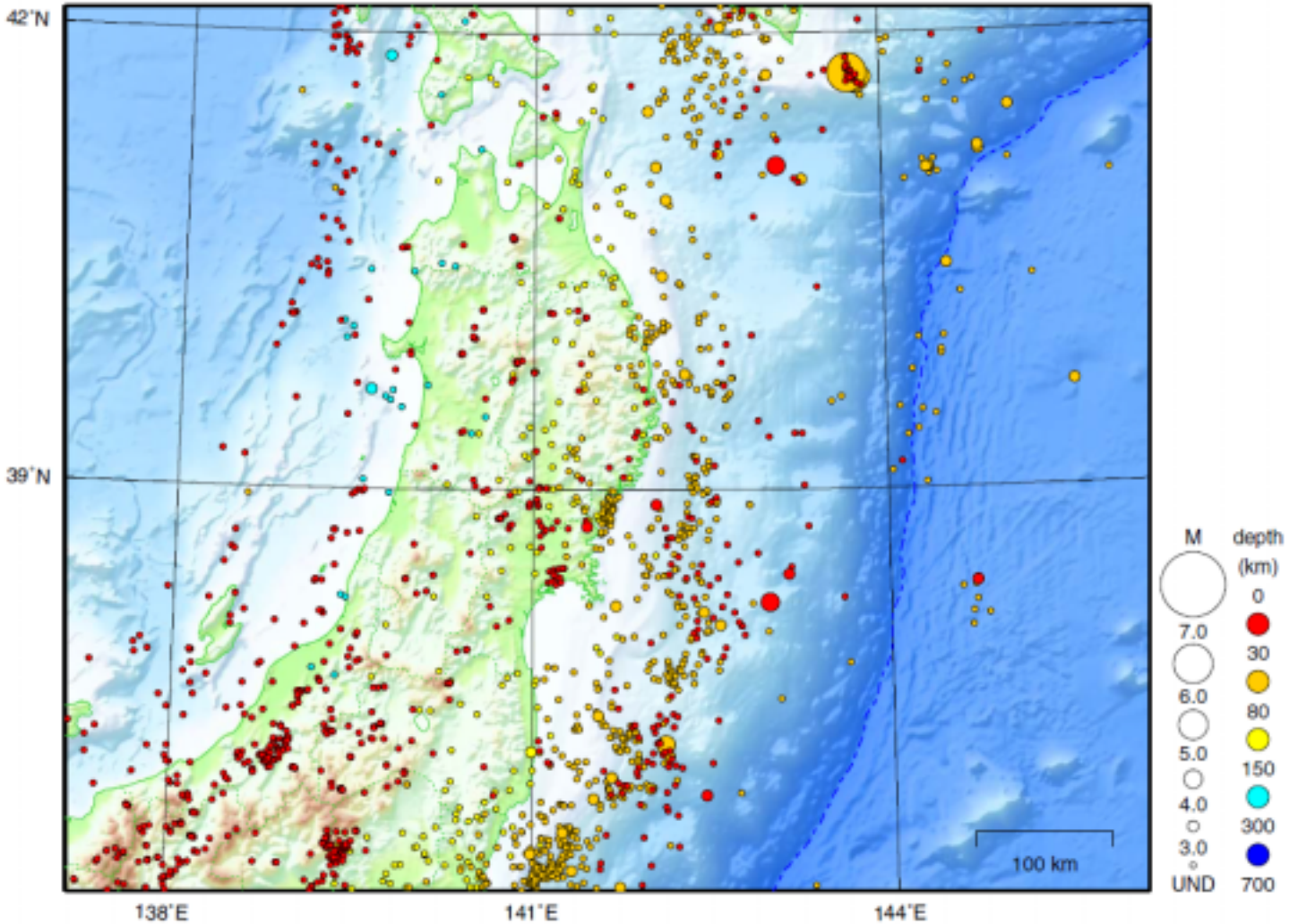
震央分布図
(1923年8月以降、深さ0~200 km、M 6.0)



東北地方

2007/02/01 00:00 - 2007/02/28 24:00

N=1889



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

特に目立った活動はなかった。

(上記期間外)

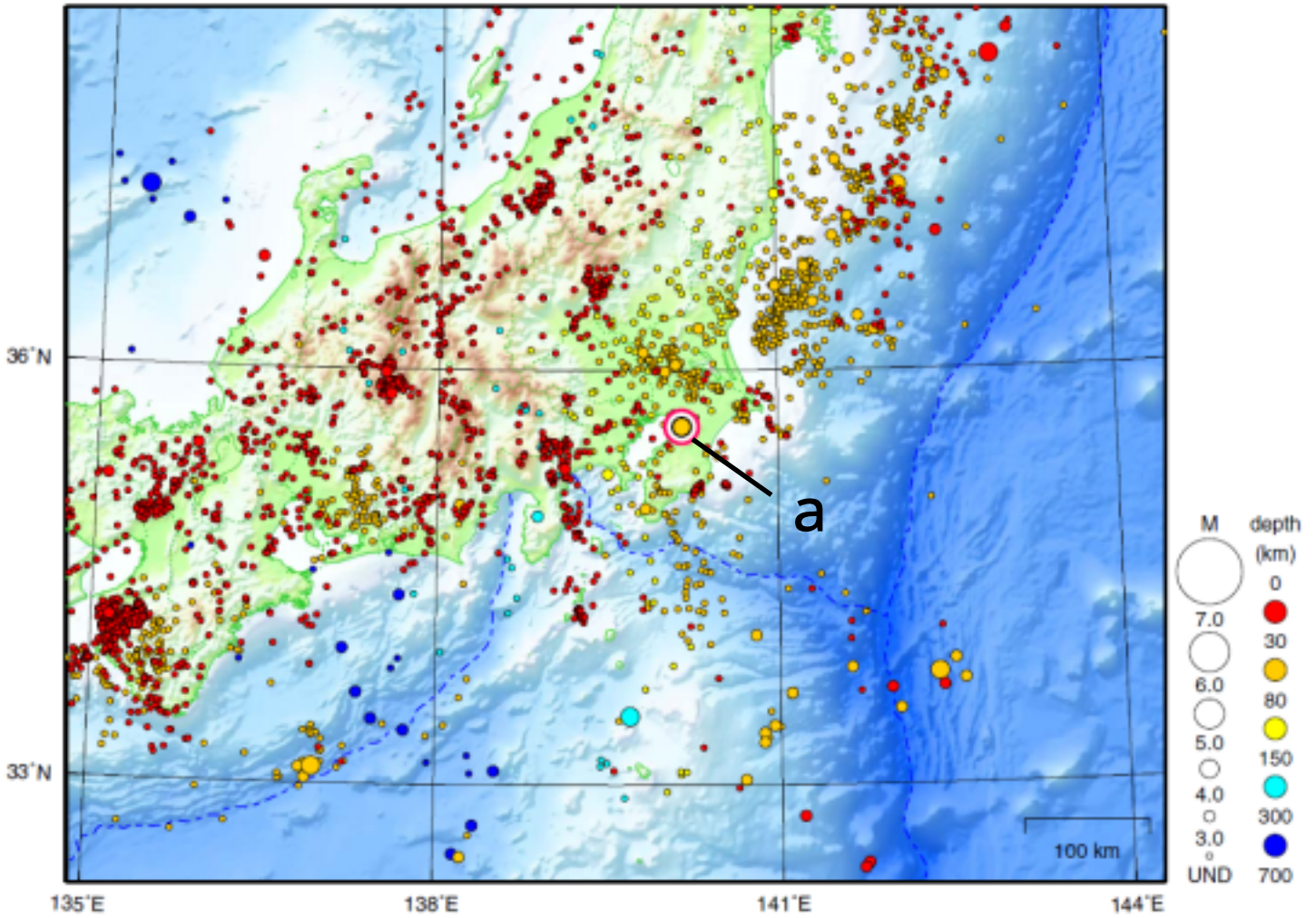
3月7日に秋田県内陸北部で M4.2 (最大震度4) の地震があった。

[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

関東・中部地方

2007/02/01 00:00 ~ 2007/02/28 24:00

N=3790



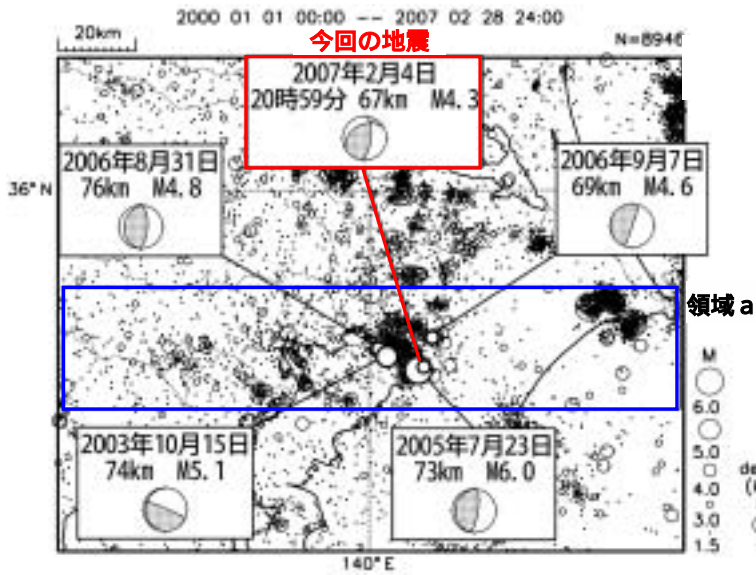
地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2v2 を使用

a) 2月4日に千葉県北西部で M4.3 (最大震度3) の地震があった。

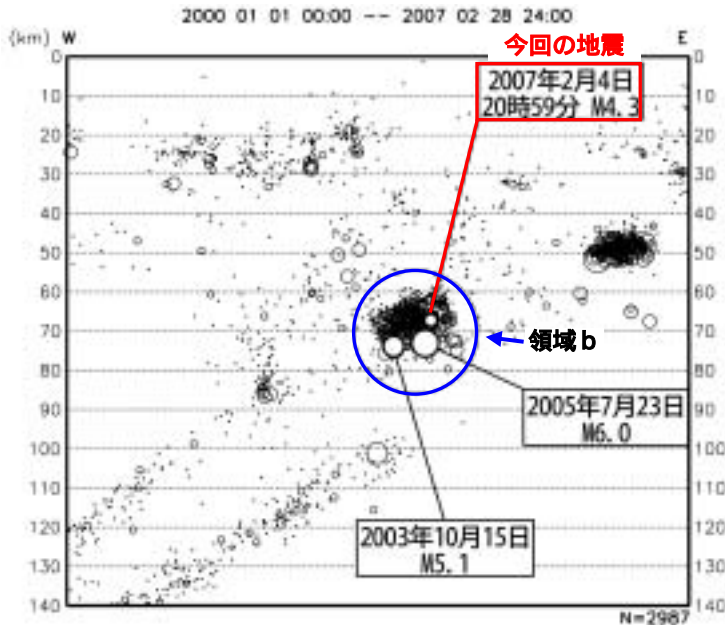
[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

2月4日 千葉県北西部の地震

A 震央分布図 (2000年1月以降、M 1.5)



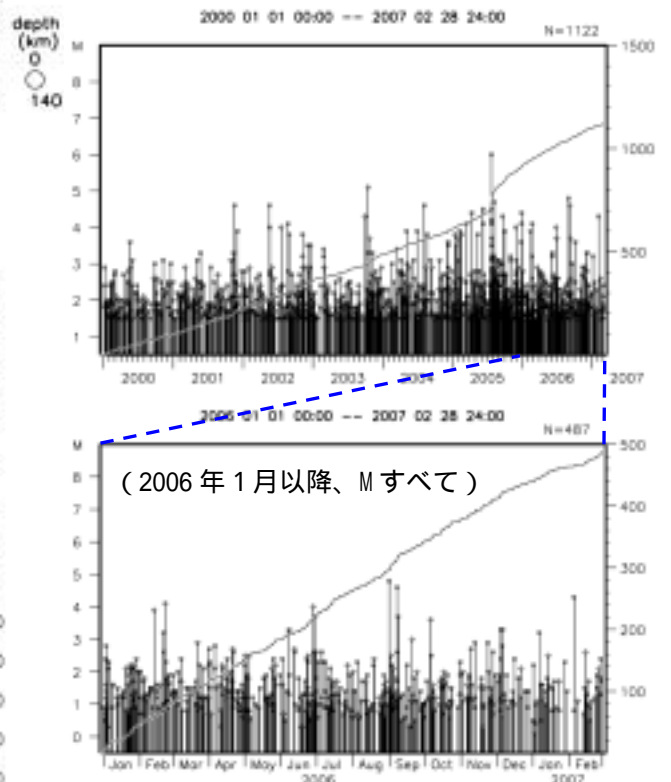
領域 a 内の東西断面図



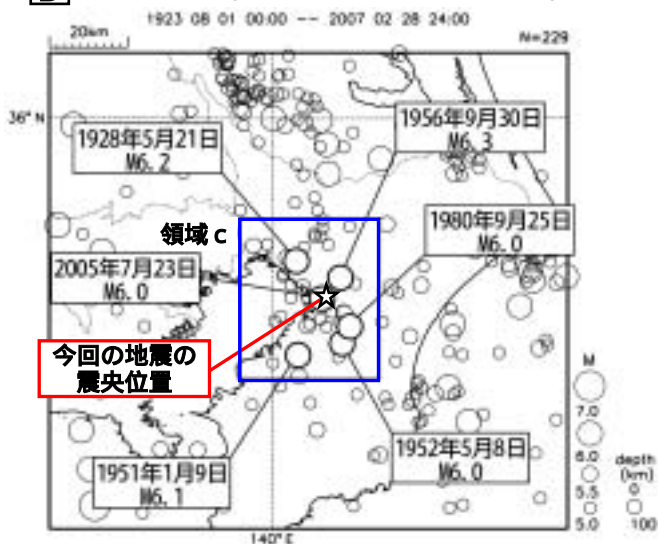
2007年2月4日20時59分に千葉県北西部の深さ67kmでM4.3(最大震度3)の地震が発生した。発震機構は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界付近で発生した地震である。

今回の地震の震源付近では2005年7月23日にM6.0(最大震度5強)の地震が発生している。(A)

領域 b 内の地震活動経過図、回数積算図

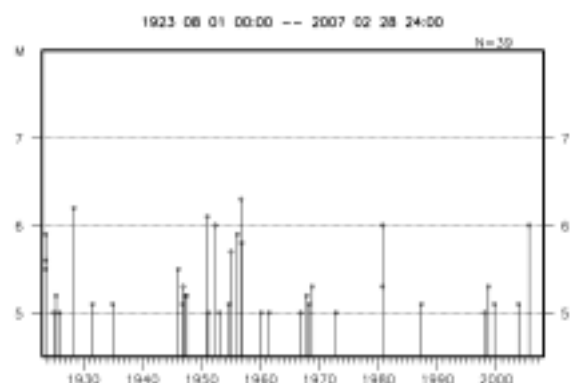


B 震央分布図 (1923年8月以降、M 5.0)



1923年8月以降、今回の地震の震央付近では、M6.0以上の地震が6回観測されている。(B)

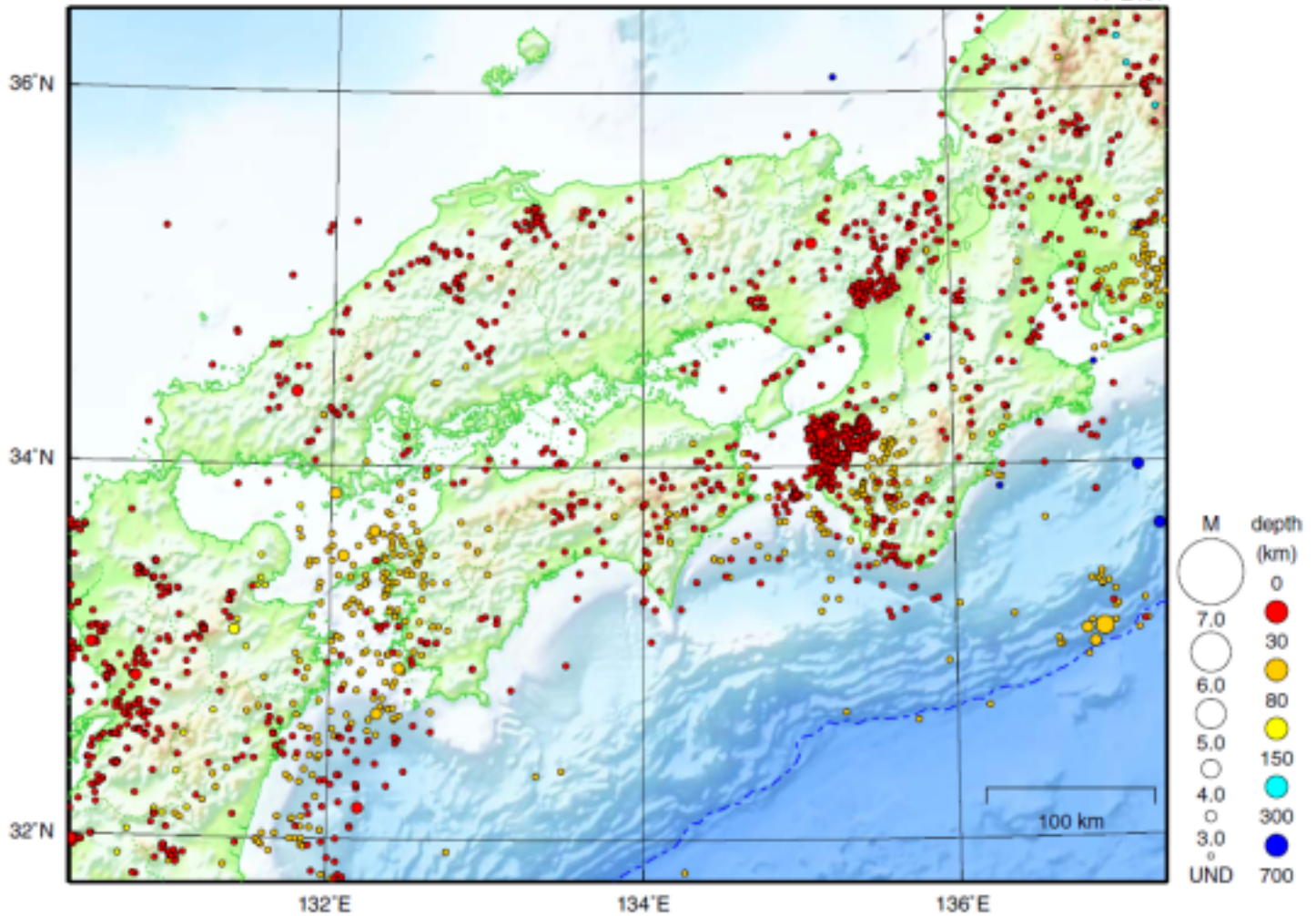
領域 c 内の地震活動経過図



近畿・中国・四国地方

2007/02/01 00:00 ~ 2007/02/28 24:00

N=2457



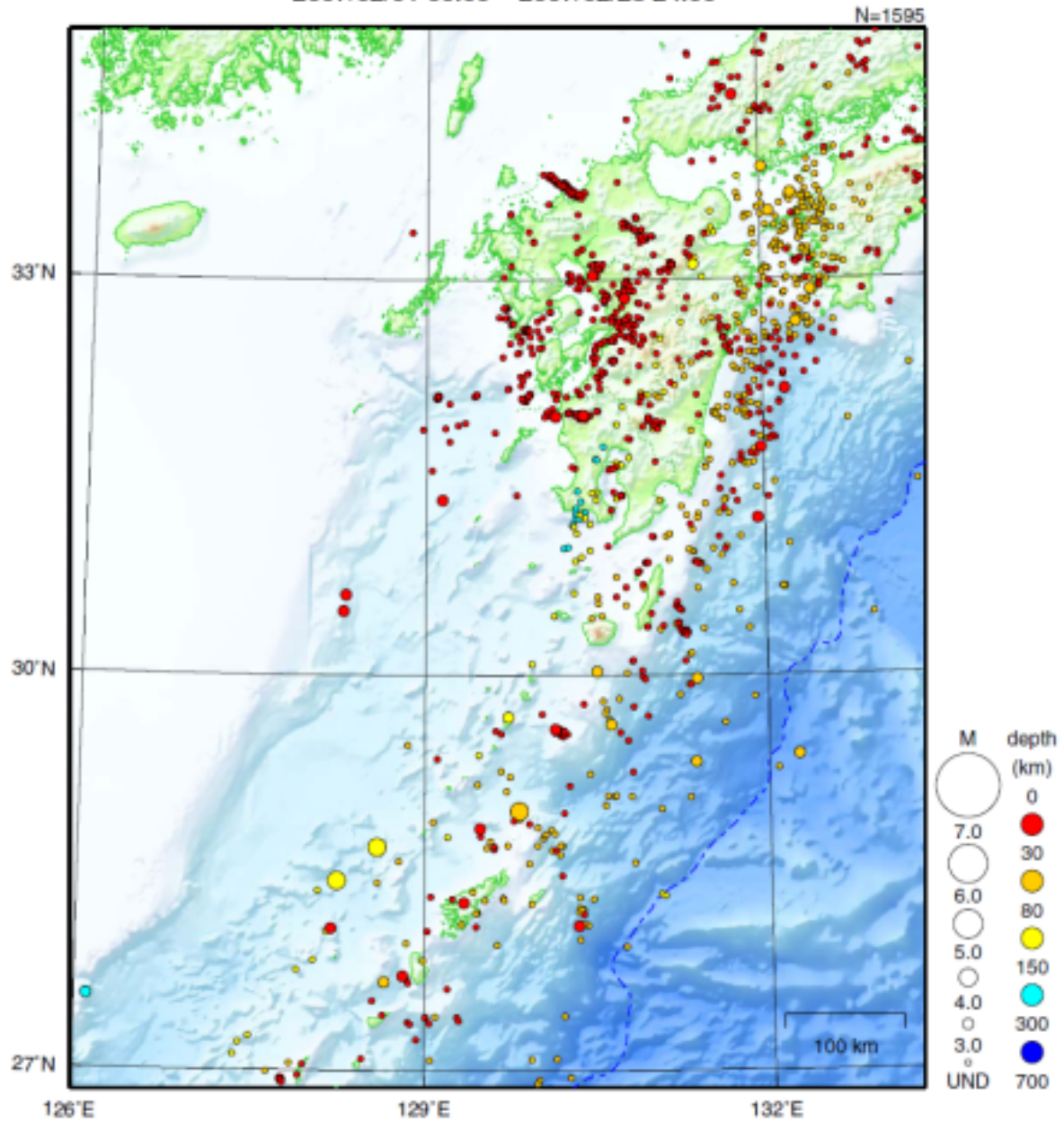
地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

特に目立った活動はなかった。

[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

九州地方

2007/02/01 00:00 - 2007/02/28 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

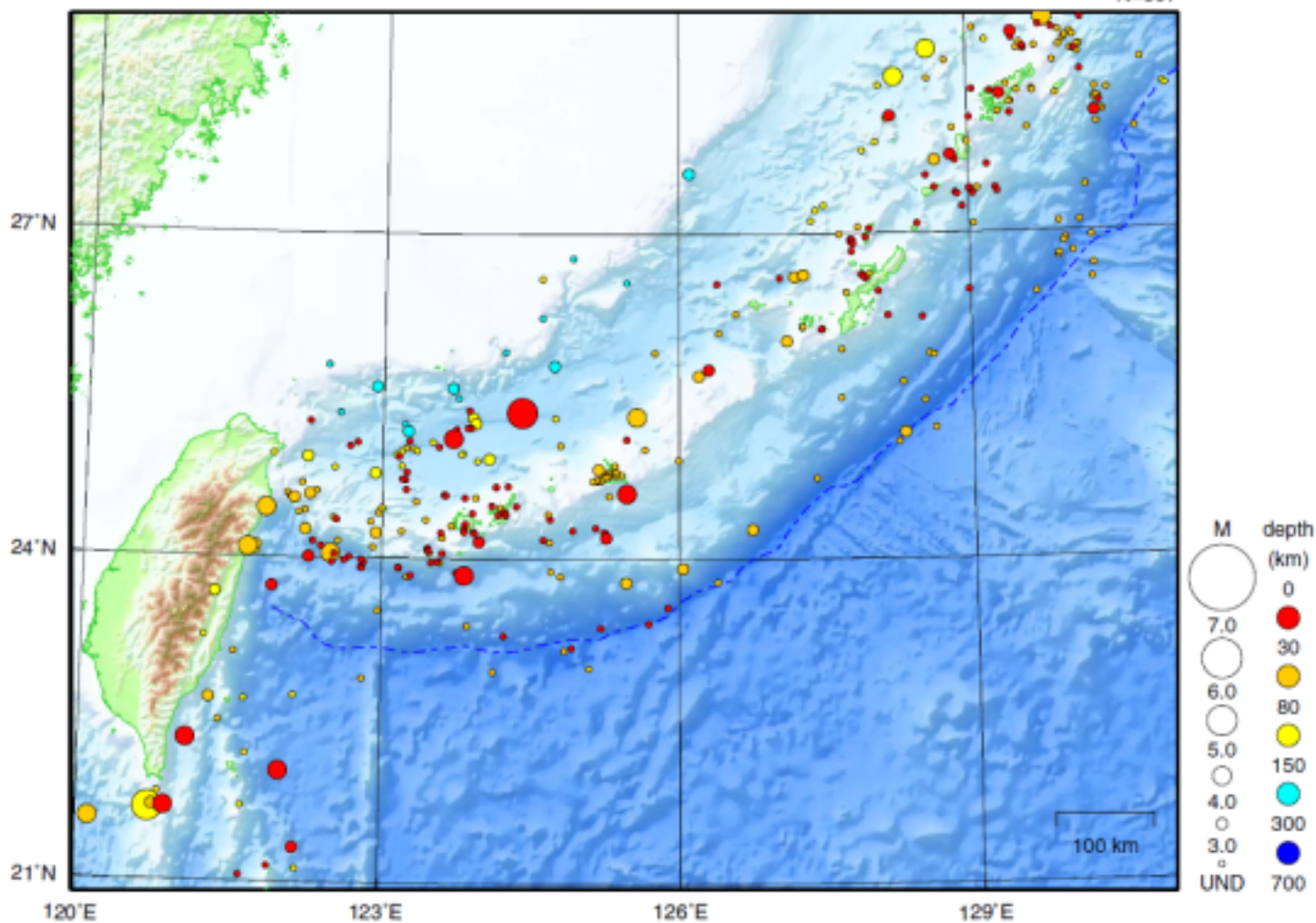
特に目立った活動はなかった。

[上述の地震はM6.0 以上、陸域でM4.0 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれかに該当する地震。]

沖縄地方

2007/02/01 00:00 - 2007/02/28 24:00

N=397



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

特に目立った活動はなかった。

[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

東海地震の想定震源域及びその周辺の地震活動

[概況]

2月5日頃から10日前後にかけて、愛知県下のプレート境界の短期的なゆっくり滑りに起因すると見られる、歪変化と低周波地震活動が観測された。

[地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会検討結果]

2月26日に気象庁において第249回地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会(定例会)を開催し、気象庁は「最近の東海地域とその周辺の地震・地殻活動」として次のコメントを発表した(図2~6)。

現在のところ、東海地震に直ちに結びつくような変化は観測されていません。

全般的には顕著な地震活動はありません。浜名湖東方から静岡県中部の直下では通常より活動レベルの低い状態になっていますが、その他の地域では概ね平常レベルです。

東海地域及びその周辺の地殻変動には注目すべき特別な変化は観測されていません。

なお、2月5日ごろから同10日前後にかけて愛知県でプレート境界の短期的なゆっくり滑りに起因すると見られる地殻変動と低周波地震活動が観測されました。この付近では同様の現象が昨年8~9月にも観測されています。

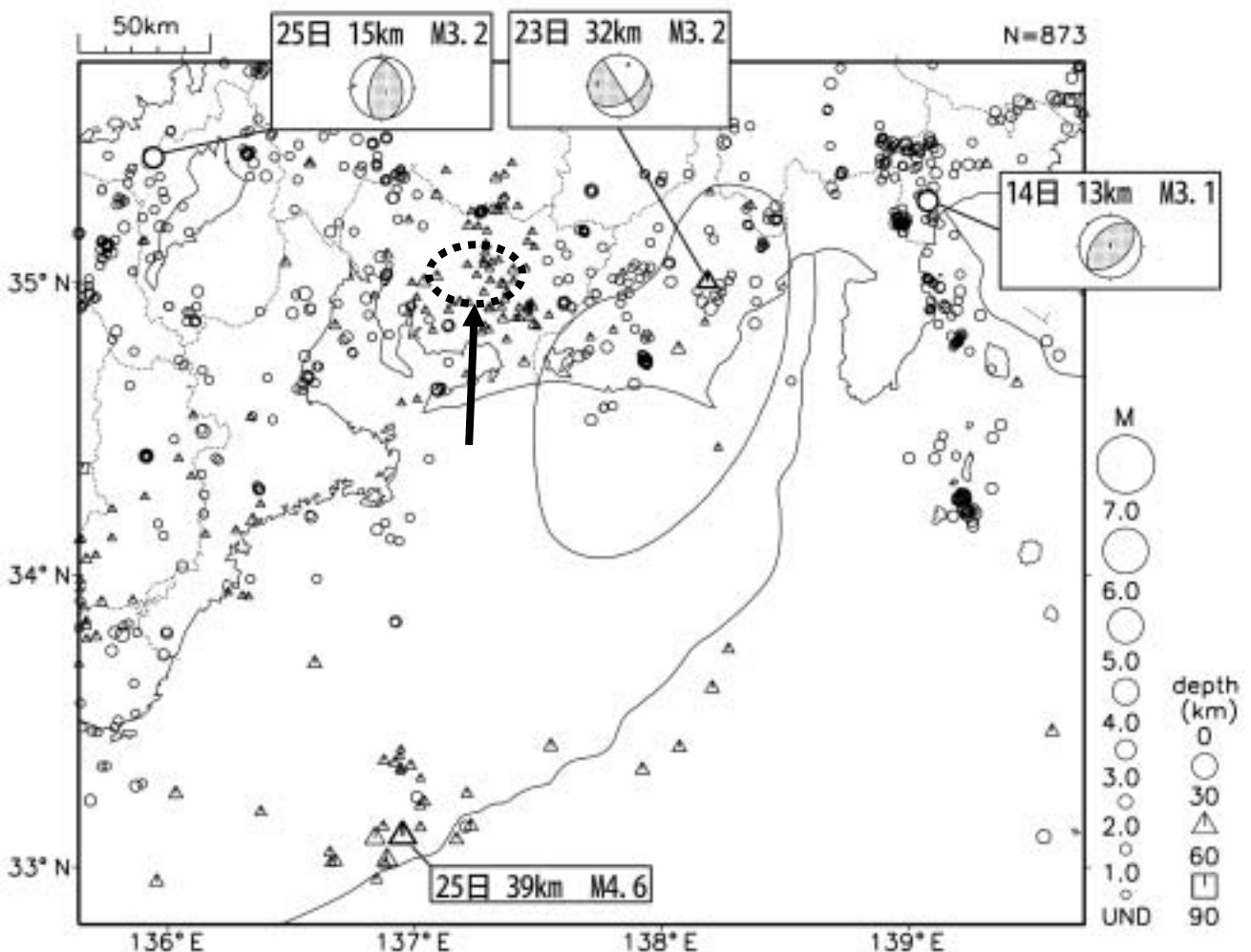


図1 震央分布図(2007年2月1日~28日:深さ90km以浅、Mすべて。M3.0以上の地震(東海道沖はM4.0以上)に「日、深さ、M」を付けた。すぐ下の図はP波初動による発震機構(下半球投影)。図中のナス型の領域は東海地震の想定震源域。)

2月5日頃から2月10日前後にかけて、愛知県下のプレート境界の短期的なゆっくり滑り

に起因すると見られる、歪変化と低周波地震活動が観測された。同様の現象は昨年8月~

9月にも観測されている。(平成18年8月地震・火山月報(防災編)を参照。この現象の詳細については平成17年7月地震・火山月報(防災編)を参照。)

14日07時36分、神奈川県西部の深さ13kmでM3.1の地震があり、最大震度2を観測した。発震機構は北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。フィリピン海プレートと陸のプレートが衝突している場所で発生した地震と考えられる。

23日23時25分、静岡県中部の深さ32kmでM3.2の地震があった。発震機構は東西方向に張力軸を持つ型で、フィリピン海プレート内部で発生した地震である。

25日08時29分、福井・滋賀県境(福井県嶺南)の深さ15kmでM3.2の地震があり、最大

震度1を観測した。発震機構は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、陸域の地殻内で発生した地震である。

25日20時41分、東海道沖(三重県南東沖)の深さ39kmでM4.6の地震があり、最大震度2を観測した。2004年9月5日に発生した東海道沖(紀伊半島南東沖)の地震(M7.4、最大震度5弱)の余震域内で発生した地震である。

注:本文中の番号は、図1中の数字に対応する。

[東海地域の地震活動の頁で使われる用語]

・「想定震源域」(図1、4)と「固着域」(図5)

東海地震発生時には、「固着域」(プレート間が強く「くっついている」と考えられている領域)あるいはその周辺の一部からゆっくりしたずれ(前兆すべり)が始まり、最終的には「想定震源域」全体が破壊すると考えられている。

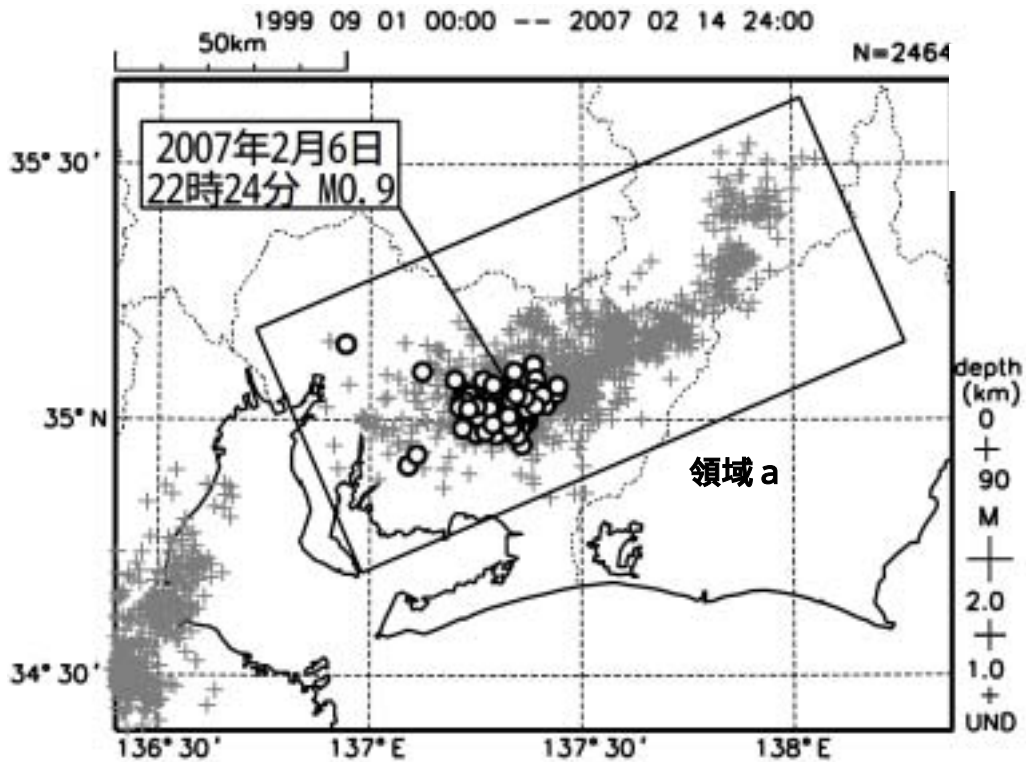
・「クラスタ除去」(図5、6)

地震は時間空間的に群(クラスタ: cluster)をなして起きることが多くある。「本震とその後起きる余震」、「群発地震」などが典型的な群(クラスタ)で、余震活動等の影響を取り除いて地震活動全体の推移を見ることを「クラスタ除去」と言う。震央距離が3km以内、発生時間差が7日以内の地震をクラスタと見なし、最大地震で代表させている。

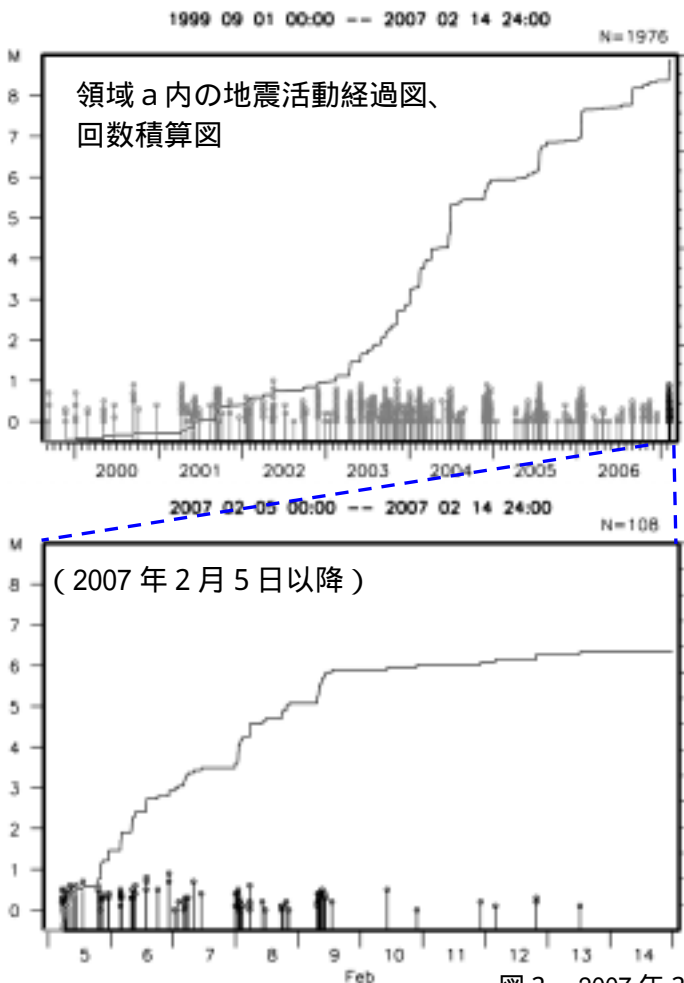
大規模な地震から国民の生命・財産を保護することを目的として、昭和53年(1978年)12月に施行された「大規模地震対策特別措置法」では、大規模な地震の発生のおそれがあり、その地震によって大きな被害が予想されるような地域をあらかじめ「地震防災対策強化地域(以下、「強化地域」という。))として指定し、地震予知のための観測施設の整備を強化し、あらかじめ地震防災に関する計画をたてる等、各種の措置を講じることとしている。強化地域は平成14年(2002年)4月に見直しが行われ、現在、静岡県全域と東京都、神奈川・山梨・長野・岐阜・愛知及び三重の各県にまたがる174市町村(平成18年4月現在)が強化地域に指定されている。強化地域では、マグニチュード8クラスと想定されている大地震(東海地震)が起こった場合、震度6弱以上(一部地域では震度5強程度)になり、沿岸では大津波の来襲が予想されている。気象庁では東海地震の直前の前兆現象を捕らえるため、地震、地殻変動等の観測データを常時監視している。

2007年2月 愛知県西部 低周波地震

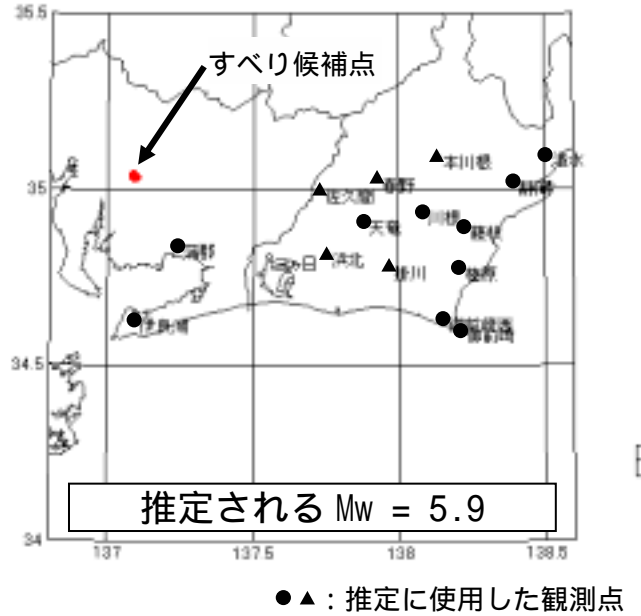
震央分布図（低周波地震のみ、1999年9月以降、Mすべて）



[2007年2月5日以降の地震を ○ で表示している。]



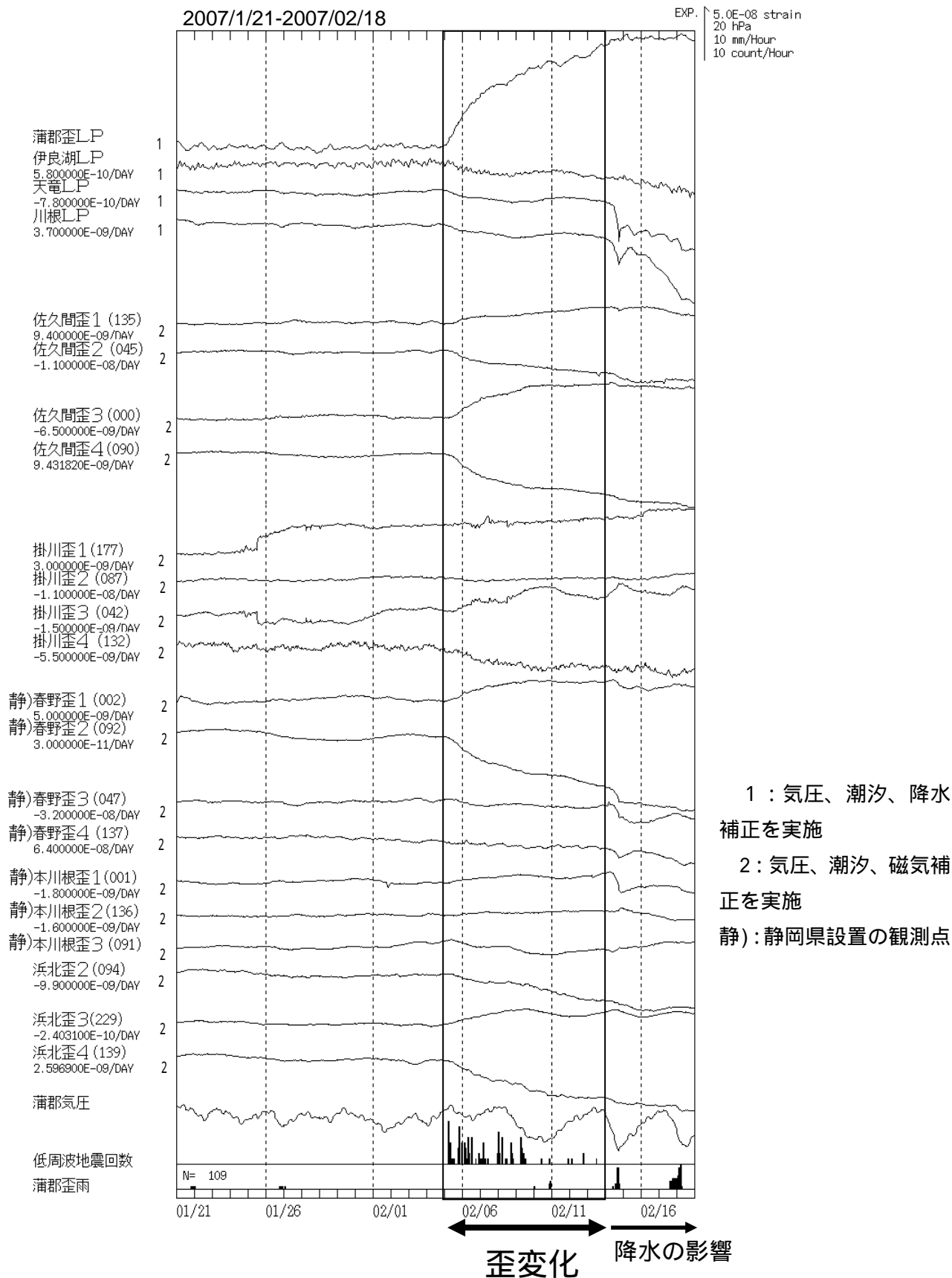
今回の歪変化より推定されるすべり候補点



2007年2月5日5時頃より、愛知県西部で低周波地震が観測された。地震活動は9日頃にはほぼおさまった。最大は2月6日22時24分に発生したM0.9の地震であった。

図2 2007年2月愛知県西部低周波地震

2007年2月 愛知県の低周波地震に伴う歪計の変化

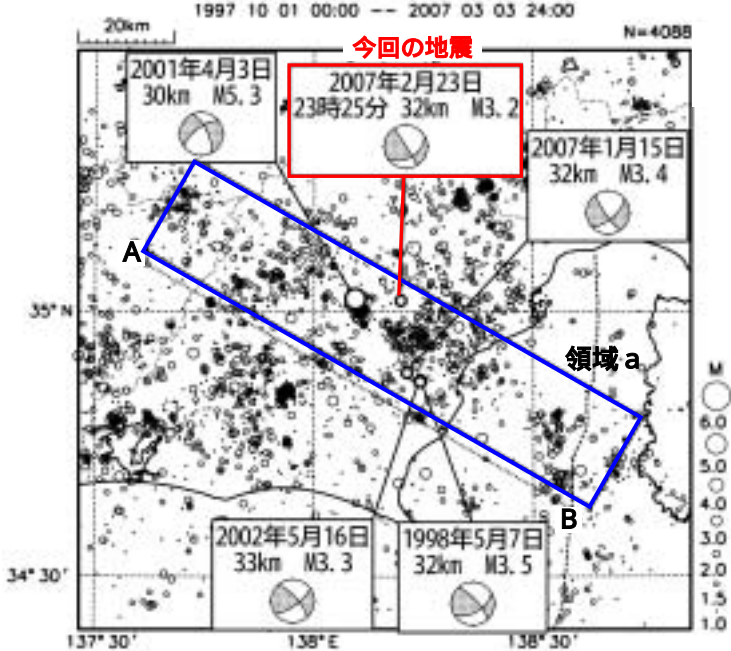


2月5日頃から13日頃にかけて、低周波地震の活動に伴い、複数の歪計で変化が観測された。なお、2月14日以降は降水の影響による変化。

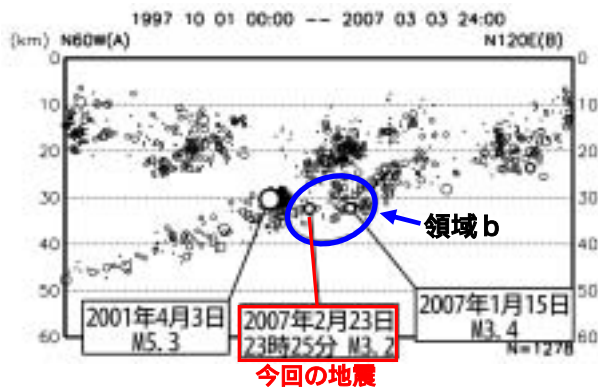
図3 2007年2月愛知県の低周波地震に伴う歪計の変化

2月23日 静岡県中部の地震

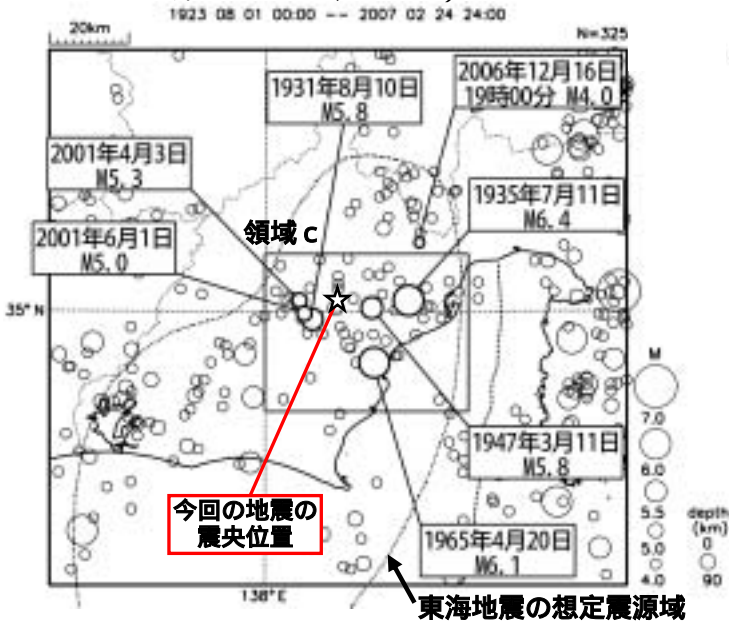
震央分布図 (1997年10月1日~2007年3月3日
深さ0~60km、M 1.0)



領域a内の断面図 (A - B 投影)



震央分布図 (1923年8月1日~2007年2月24日
深さ0~90km、M 4.0)



2007年2月23日23時25分に静岡県中部の深さ32kmでM3.2 (震度1以上を観測した地点なし)の地震が発生した。発震機構は東西方向に張力軸を持つ型で、フィリピン海プレート内で発生した地震であると考えられる。今回の地震の震源周辺では、2007年1月15日にもM3.4 (最大震度2)の地震が発生するなど、M3.0以上の地震が時々発生している。

なお、今回の地震の震源の西方では、2001年4月3日にM5.3 (最大震度5強)の地震が発生し、「東海地域の地震・地殻活動に関する情報(解説情報3号)」を発表している。

1923年8月以降、今回の地震の震央付近では、1935年7月11日にM6.4、1965年4月20日にM6.1の地震が発生しているが、1970年以後はそれ以前に比べ規模の大きな地震が少なく、M5.0以上の地震は2001年4月3日のM5.3 (最大震度5強)と2001年6月1日のM5.0 (最大震度3)の地震のみである。

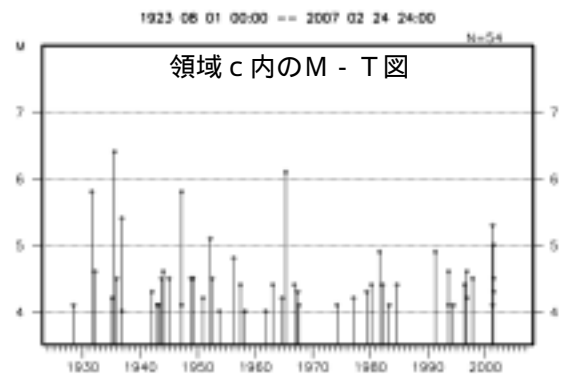


図4 2月23日静岡県中部の地震

東海地域の地震活動指数

(クラスタを除いた地震回数による)

2007年2月21日 現在

	① 固着域		② 愛知県		③ 浜名湖			④ 駿河湾
	地殻内	フィリピン海プレート	地殻内	フィリピン海プレート	フィリピン海プレート内			全域
					西側	全域	東側	
短期活動指数	5	4	5	6	4	2	2	4
短期地震回数 (平均)	8 (6.34)	5 (5.90)	6 (4.49)	16 (12.63)	1 (2.38)	2 (5.91)	1 (3.53)	6 (6.11)
中期活動指数	5	5	4	6	1	0	1	4
中期地震回数 (平均)	23 (19.03)	20 (17.69)	14 (13.46)	46 (37.90)	1 (4.76)	3 (11.82)	2 (7.06)	13 (12.22)

* Mしきい値:

M \geq 1.1: 固着域、愛知県、浜名湖、M \geq 1.4: 駿河湾

* クラスタ除去:

震央距離が Δr 以内、発生時間差が Δt 以内の地震をグループ化し、最大地震で代表させる。

$\Delta r=3\text{km}$ 、 $\Delta t=7\text{日}$: 固着域、愛知県、浜名湖

$\Delta r=10\text{km}$ 、 $\Delta t=10\text{日}$: 駿河湾

* 対象期間:

短期: 30日間 (固着域、愛知県)、90日間 (浜名湖、駿河湾)

中期: 90日間 (固着域、愛知県)、180日間 (浜名湖、駿河湾)

* 基準期間:

1997年-2001年 (5年間): 固着域、愛知県、1998年-2000年 (3年間): 浜名湖

1991年-2000年 (10年間): 駿河湾

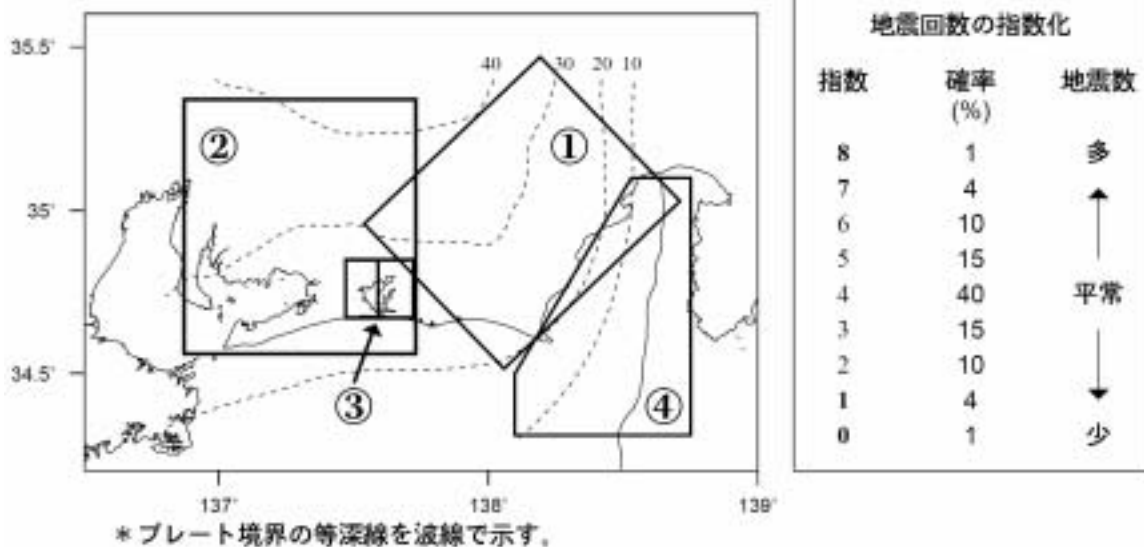
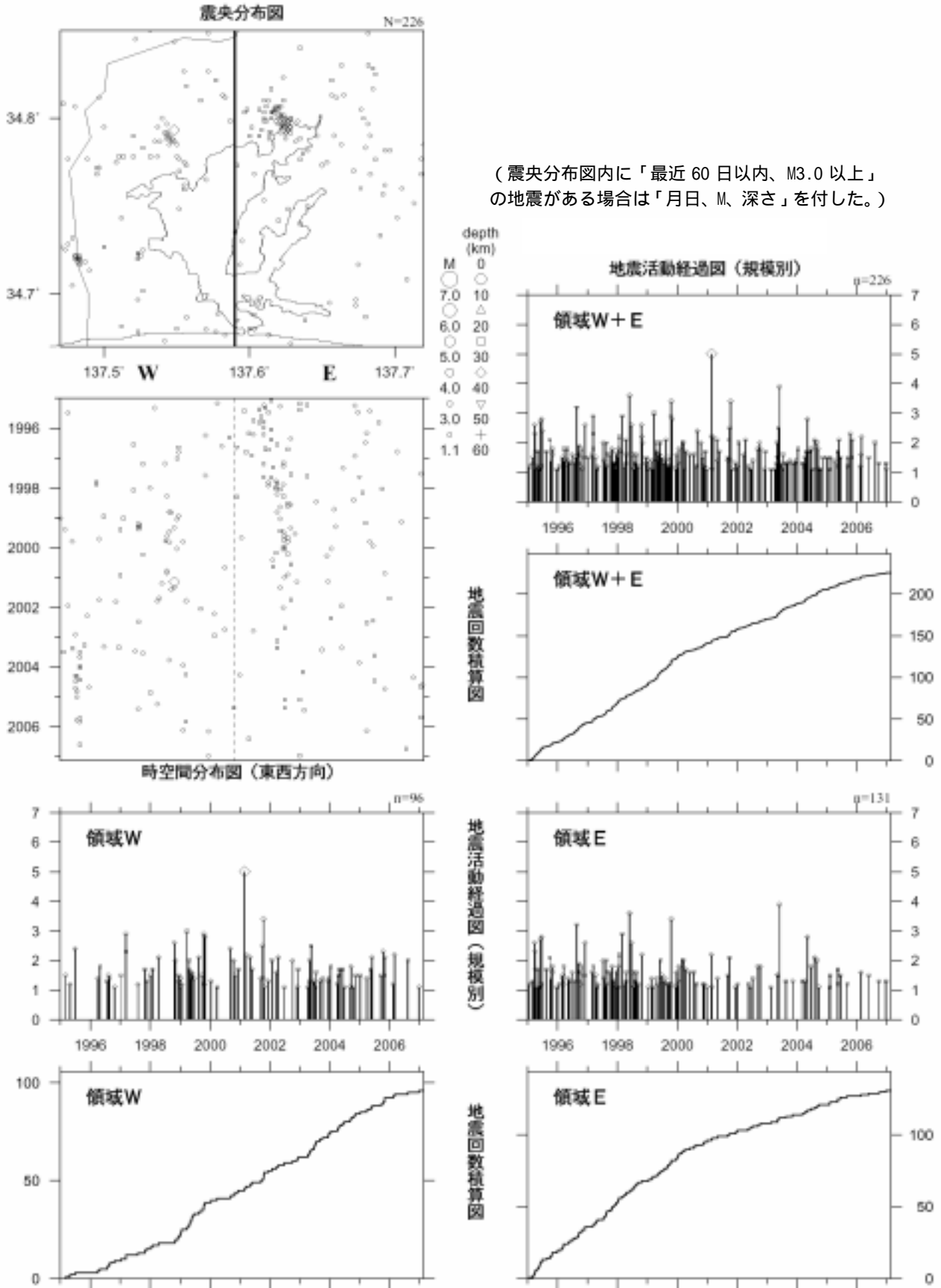


図5 東海地域の地震活動指数

浜名湖は、活動指数の低い状態が継続している。それ以外の地域は、ほぼ平常の活動であった。

浜名湖（フィリピン海プレート内）

1995/ 1/ 1~2007/ 2/ 21 M ≥ 1.1 * クラスタ除去したデータ



(震央分布図内に「最近 60 日以内、M3.0 以上」の地震がある場合は「月日、M、深さ」を付した。)

図 6 浜名湖付近のフィリピン海プレート内の地震活動

領域 E では 2000 年 終 わり ごろ からの 活 動 の 低 下 が 継 続 し て い る 。 領 域 W も こ こ 数 ヶ 月 は や や 静 か に な っ て い る 。

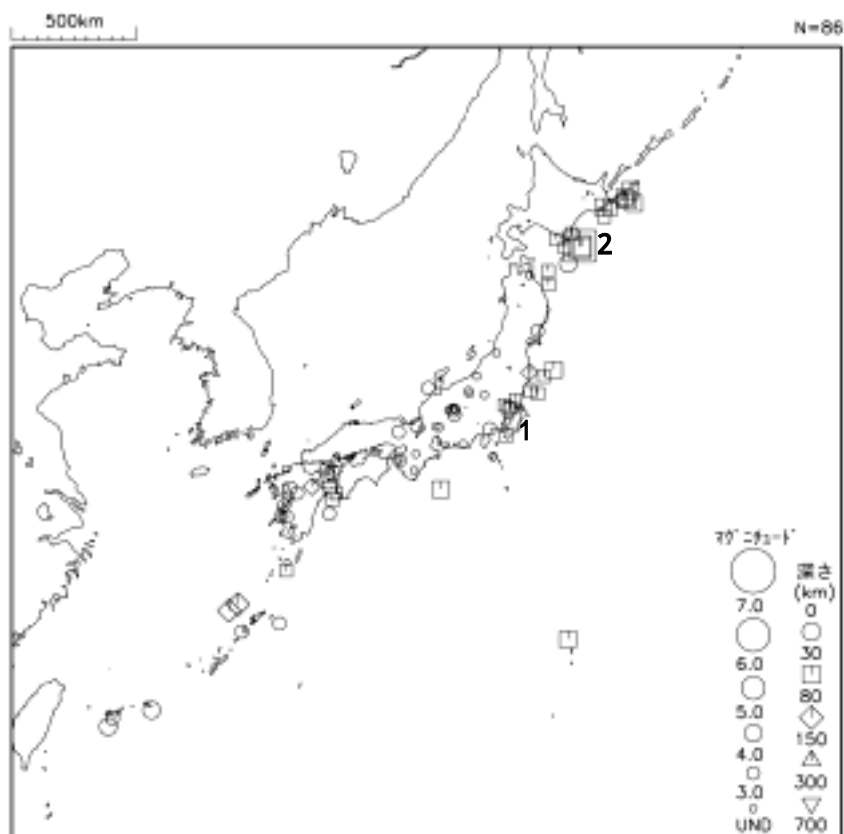


図1 2007年2月に震度1以上を観測した地震
(図中の番号は、表のNoに対応する地震)

注：2月10日02時28分の地震は震源の詳細が不明のため、震央分布図には表示されていない

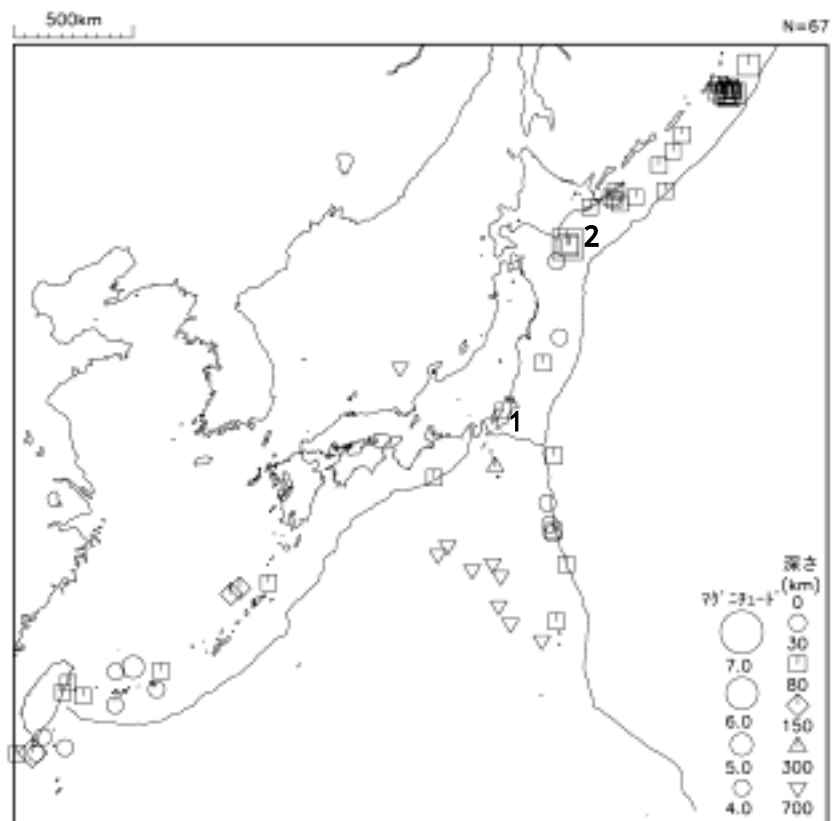


図2 2007年2月に発生したM4.0以上の地震
(図中の番号は、表のNoに対応する地震)

総数 : 7,431

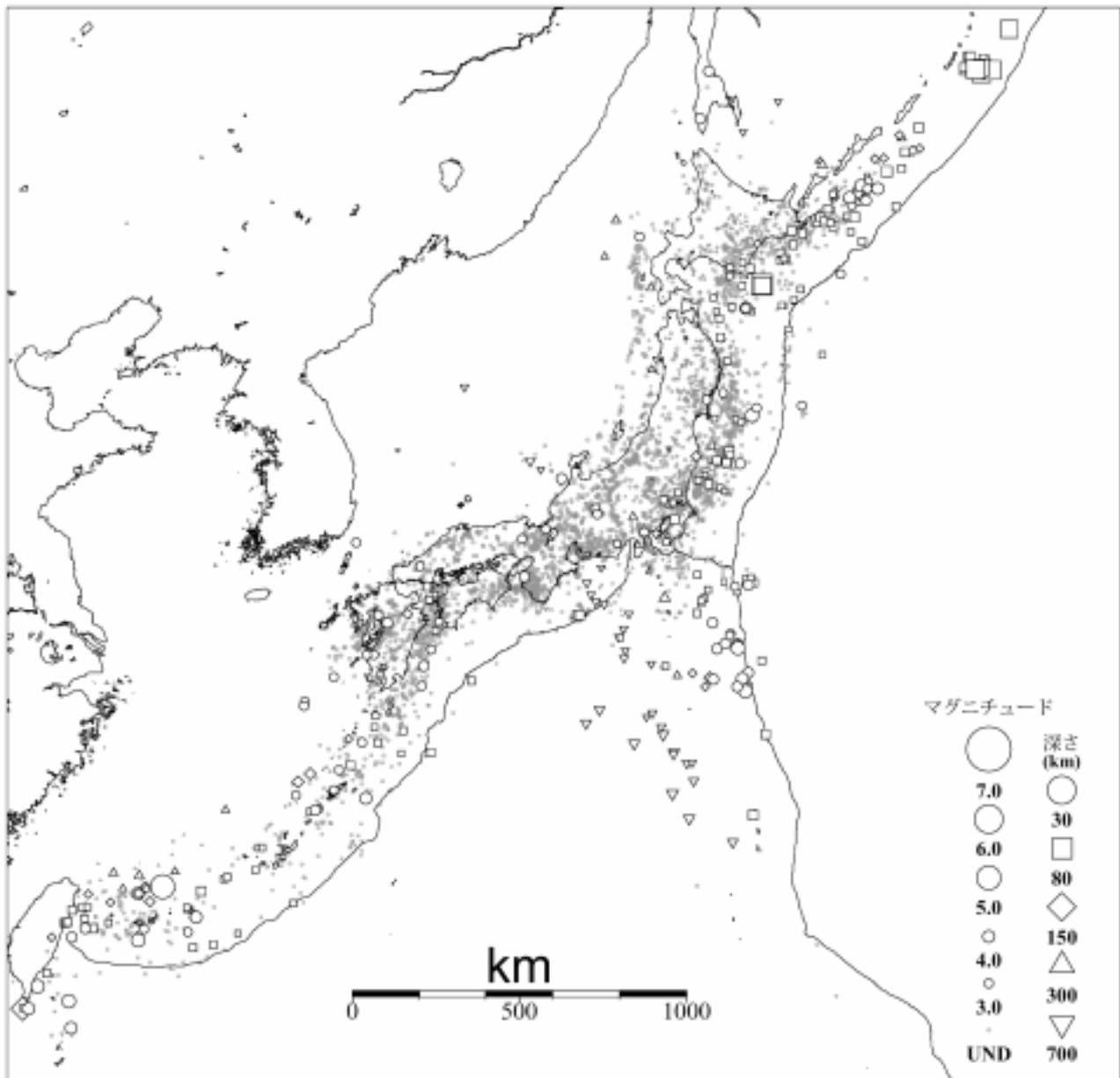


図3 気象庁が震源を決定した日本付近の2007年2月の地震の震央分布
(M3.0以上の地震については白抜きで示す)

表 1 . 過去 1 年間に震度 1 以上を観測した地震の最大震度別の月別回数
 <平成 18 年(2006 年) 2 月～平成 19 年(2007 年) 2 月>

	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	計	記事
2007年2月	62	21	3	1						87	
2007年1月	63	28	10	1						102	新島・神津島近海 (震度 2 : 3 回、震度 1 : 11 回)
2006年12月	82	46	14	3						145	新島・神津島近海(震度 4 : 1 回、 震度 3 : 6 回、震度 2 : 12 回、 震度 1 : 14 回)
2006年11月	98	22	11	4						135	新島・神津島近海 (震度 3 : 2 回、震度 2 : 2 回、 震度 1 : 8 回)
2006年10月	73	23	5	1						102	
2006年9月	64	21	11	1						97	
2006年8月	63	22	8	1						94	
2006年7月	82	24	12	3						121	新島・神津島近海(震度 4 : 2 回、 震度 3 : 2 回、震度 2 : 5 回、 震度 1 : 15 回)
2006年6月	59	34	6	2	1					102	12日 大分県西部(震度 5 弱)
2006年5月	81	20	6	2						109	
2006年4月	89	47	22	3	1					162	30日 伊豆半島東方沖(震度 5 弱: 1 回、 震度 4 : 1 回、震度 3 : 4 回、 震度 2 : 6 回、震度 1 : 33 回)
2006年3月	66	31	11		1					109	27日 日向灘(震度 5 弱)
2006年2月	44	30	3	4						81	
2007年計	125	49	13	2						189	(平成19年1月～平成19年2月)
過去1年計	882	339	119	22	3					1365	(平成18年3月～平成19年2月)

注) 「記事」欄の「*」は関連の地震で震度 1 以上を観測した地震の回数。「記事」欄には主に震度 5 弱以上を観測した地震、
 または震度 1 以上を 10 回以上観測した地震活動について記載した。
 地方公共団体等の震度計による震度の発表開始年月日。

平成 9(1997)年 11 月 10 日 秋田県、埼玉県、横浜市(神奈川県)、新潟県、愛知県、大阪府、奈良県、和歌山県、岡山県、山口県

平成 10(1998)年 6 月 15 日 群馬県、福井県、静岡県、三重県、島根県、愛媛県

10 月 15 日 青森県、山形県、茨城県、石川県、京都府、兵庫県、鳥取県、広島県、徳島県、熊本県、
 宮崎県、鹿児島県

平成 11(1999)年 7 月 21 日 東京都、長野県

平成 12(2000)年 1 月 12 日 栃木県、千葉県、岐阜県、名古屋市(愛知県)

3 月 28 日 滋賀県

7 月 18 日 富山県、香川県、大分県

平成 13(2001)年 3 月 22 日 佐賀県 5 月 10 日 山梨県、川崎市(神奈川県)

7 月 19 日 高知県 12 月 12 日 福島県

平成 14(2002)年 3 月 20 日 岩手県、宮城県、神奈川県、福岡県、仙台市(宮城県)

7 月 29 日 北海道、長崎県

平成 15(2003)年 3 月 10 日 沖縄県

平成 16(2004)年 5 月 26 日 独立行政法人防災科学技術研究所

表 2 . 日本及びその周辺におけるマグニチュード (M)別の月別地震回数
 <平成 18 年 (2006 年) 2 月 ~ 平成 19 年 (2007 年) 2 月>

	M3.0 ~ M3.9	M4.0 ~ M4.9	M5.0 ~ M5.9	M6.0 ~ M6.9	M7.0 以上	計 M3.0以上	計 M4.0以上	記事
2007年 2 月	232	57	9	1		299	67	17日：十勝沖(M6.2)
2007年 1 月	244	113	24	2	2	385	141	13日：千島列島東方(M8.2) 14日：千島列島東方(M6.5) 25日：台湾付近(M6.1) 31日：マリアナ諸島(M7.1)
2006年12月	274	107	26	2	1	410	136	8日：千島列島東方(M6.4) 26日：台湾付近(M6.9、M7.2)
2006年11月	254	76	42	3	1	376	122	15日：千島列島東方(M7.9、M6.6) 16日：千島列島東方(M6.1) 18日：奄美大島近海(M6.0)
2006年10月	254	75	19	7		355	101	1日：千島列島東方(M6.8、M6.6) 9日：台湾南方沖(M6.1) 11日：福島県沖(M6.0) 12日：与那国島近海(M6.2) 13日：千島列島東方(M6.3) 24日：島島近海(M6.8)
2006年 9 月	268	62	10	1		341	73	28日：千島列島東方(M6.0)
2006年 8 月	263	57	10	1		331	68	7日：父島近海(M6.2)
2006年 7 月	232	40	3	1		276	44	28日：台湾付近(M6.2)
2006年 6 月	268	59	10	1		338	70	12日：大分県西部(M6.2)
2006年 5 月	239	53	4			296	57	
2006年 4 月	269	89	13	2		373	104	1日：台湾付近(M6.4) 16日：台湾付近(M6.0)
2006年 3 月	287	66	9	1		363	76	28日：東海道沖(M6.0)
2006年 2 月	253	66	6	2		327	74	15日：マリアナ諸島近海(M6.6) 17日：父島近海(M6.0)
2007年計	476	170	33	3	2	684	208	(平成19年 1 月 ~ 平成19年 2 月)
過去 1 年計	3084	854	179	22	4	4143	1059	(平成18年 3 月 ~ 平成19年 2 月)

注)日本及びその周辺：原則、北緯20～49度、東経120～154度の範囲。「記事」欄には主にM6.0以上の地震について記載した。

世界の主な地震

2月に世界で発生したマグニチュード(M)6.0以上または被害を伴った地震の震央分布を図1に示す。また、その震源要素等を表1に示す。

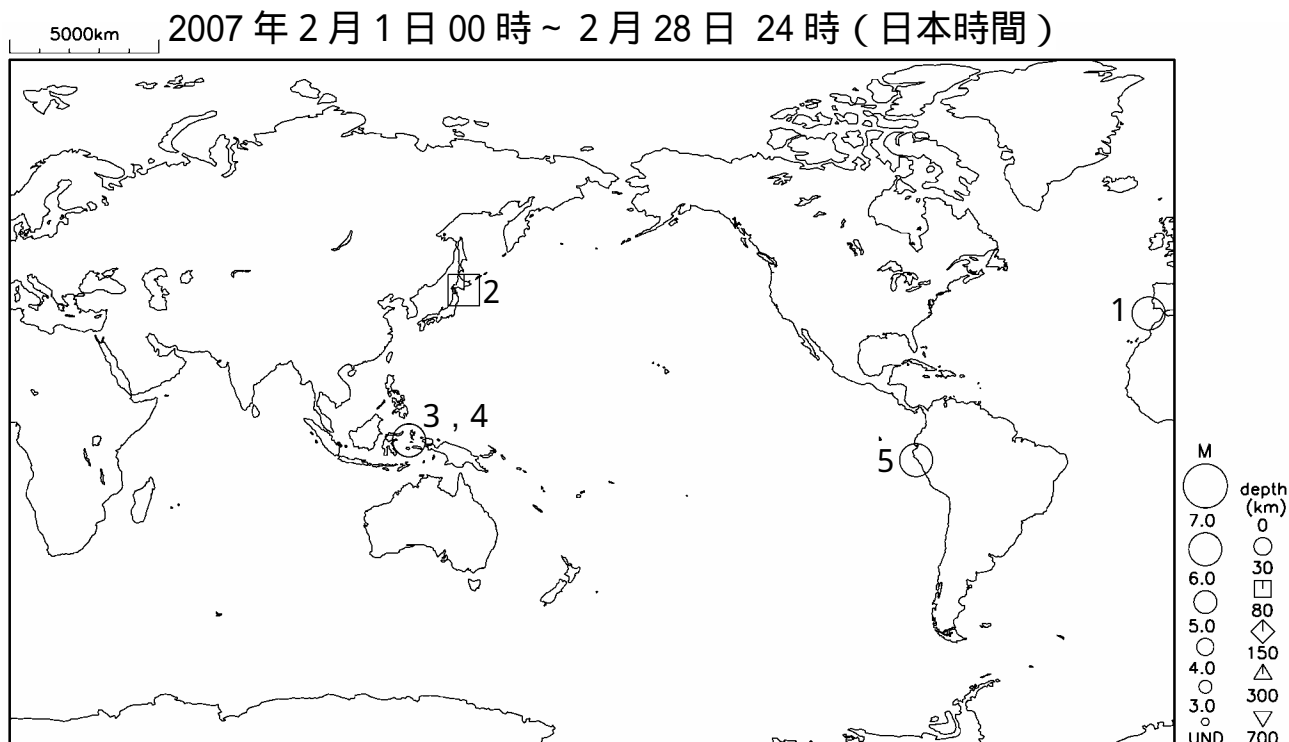


表1 2007年2月に世界で発生したマグニチュード6.0以上または被害を伴った地震の震源要素等

番号	月日時分	緯度	経度	深さ (km)	mb	Ms	Mw	震央地名	備考 (被害状況など)
1	02月12日19時35分	N35° 49.9'	W 10° 20.2'	10*	6.2	5.8	5.9	アゾレス-セントビンセント嶺海嶺	
2	02月17日09時02分	N41° 43.9'	E143° 43.3'	40	6.0	(6.2)	6.0	十勝沖	NWPTA発表
3	02月20日17時04分	S 1° 01.0'	E126° 59.5'	11*	6.2	6.6	6.5	モルッカ海南部	
4	02月20日23時25分	S 1° 04.4'	E126° 57.7'	11*	6.0	5.8	5.9	モルッカ海南部	
5	02月24日11時36分	S 7° 00.6'	W 80° 21.9'	23*	5.9	6.1	6.3	ペルー北部沖	

- ・震源要素、被害状況等は米国地質調査所(USGS)発表のQUICK EPICENTER DETERMINATIONS(QED)による(2007年3月5日現在)。ただし、日本付近で発生した地震については震源要素及びマグニチュード(Msの欄に括弧を付して記載)は気象庁、被害状況は総務省消防庁による。
- ・時分は震源時で日本時間[日本時間=協定世界時+9時間]である。
- ・MwはUSGSのモーメントマグニチュードである。
- ・震源の深さに「*」が付いているのは、USGSが推定した深さである。
- ・NWPTAは、気象庁が北西太平洋域に提供している北西太平洋津波情報である(地震・火山月報(防災編)2005年5月号参照)。

注1 本資料で示すレベルとは、現在12火山に導入している火山活動度レベルをいう。

注2 火山名に下線を引いた火山について、説明資料（火山活動解説資料）を配布。

平成19年2月の主な火山活動

【噴火した火山】

桜島 [比較的静穏な噴火活動(レベル2)]

南岳山頂火口で10日、13日及び16日に爆発的噴火が発生した。

諏訪之瀬島 [活発な状況(レベル3)]

5～7日、19日、20日に爆発的噴火が発生した。

【活動が活発もしくはやや活発な状態であった火山】

樽前山 [やや活発な状況]

A火口及びB噴気孔群は依然として高温の状態が続いていると推定される。

御嶽山 [やや活発な状況]

火山性地震はやや多く、火山性微動が時々発生しているほか、御嶽山の地下の膨張を示すわずかな伸びも見られている。

御嶽山の火山活動はやや活発な状況で経過しており、山頂付近では注意が必要である。

三宅島 [やや活発な状況]

噴煙活動は引き続き活発で、二酸化硫黄の放出量は今期間に実施した観測では一日あたり900～4,500tと、依然として多い状態が続いている。

硫黄島 [やや活発な状況]

国土地理院及び防災科学技術研究所の観測によると、昨年8月以降、島北部の元山地域付近で大きな隆起が続いている。

福徳岡ノ場 [やや活発な状況]

1日に第三管区海上保安本部が、また、19日に海上自衛隊が上空から行った観測で、付近の海面に火山活動によるとみられる変色水が確認された。

霧島山(御鉢) [やや活発な状況(レベル2)] 5日に静穏な状況から引き上げ

5日に振幅のやや大きな火山性微動が発生するなど、火山活動はやや活発な状態となった。なお、その後、振幅の小さな火山性微動が発生する程度で、火山活動は静穏な状態となったことから、3月5日(期間外)に静穏な状況(レベル1)に引き下げた。

薩摩硫黄島 [やや活発な状況(レベル2)]

地震活動、噴煙活動ともにやや活発な状態が続いている。

口永良部島 [やや活発な状況(レベル2)]

火山性地震及び火山性微動のやや多い状態が続いている。

【期間中に静穏な状況となった火山】

十勝岳 [静穏な状況] 16日にやや活発な状況から引き下げ

62-2火口では昨年1月以降熱活動が低下し、火山活動は静穏な状況となった。

【静穏な状況ではあるがデータに変化があった火山】

箱根山 [静穏な状況]

16日から18日にかけて地震がやや増加した。

【北海道地方】



【東北地方】



【関東中部地方、伊豆小笠原諸島】



【九州地方、南西諸島】



その他、今月は丸山、大雪山、利尻山の火山活動解説資料を作成している

注) 記号の意味

- △ : 火山活動評価が静穏な状況もしくはレベル1
 - △ : 火山活動評価がやや活発な状況もしくはレベル2
 - △ : 火山活動評価が活発な状況もしくはレベル3
 - △ : 解説を掲載した火山
 - △ : 解説を掲載した火山のうち噴火した火山
- 2重線を引いた記号はレベルを示す。

図1 各火山の活動状況

過去1年間の火山活動の状況（やや活発もしくは活発な状況であった火山）

火 山 名	平成18年											平成19年	
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
雌阿寒岳	噴火活動												
十勝岳	噴火活動												
樽前山	噴火活動												
浅間山	噴火レベル												
御嶽山	噴火活動												
伊豆大島	噴火レベル												
三宅島	噴火活動												
硫黄島	噴火活動												
福德岡ノ場	噴火活動												
阿蘇山	噴火レベル												
霧島山（新燃岳）	噴火レベル												
霧島山（御鉢）	噴火レベル												
桜島	噴火レベル												
薩摩硫黄島	噴火レベル												
口永良部島	噴火レベル												
諏訪之瀬島	噴火レベル												

（注）表中で、活動とは火山活動評価を示す。また、記号は以下のとおり

- ：火山活動評価が静穏な状況もしくはレベル1
- ：火山活動評価がやや活発な状況もしくはレベル2
- ：火山活動評価が活発な状況もしくはレベル3
- ：噴火

2007年2月の火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
十勝岳	火山観測情報 第1号	16日 18:30	62-2火口の噴煙活動、火口温度が低下するなど火山活動は静穏な状況となった。
御嶽山	火山観測情報 第4号	2日 14:00	1月29日から2月2日13時までの活動状況。火山活動はやや活発な状況。
	火山観測情報 第5号	5日 16:00	2日から5日15時までの活動状況。火山活動はやや活発な状況。
	火山観測情報 第6号	8日 14:00	5日から8日13時までの活動状況。GPSによる地殻変動観測で昨年12月以降わずかな伸びの変化を確認。6日の上空観測結果。火山活動はやや活発な状況。
	火山観測情報 第7号	13日 16:00	8日から13日15時までの活動状況。火山活動はやや活発な状況。
	火山観測情報 第8号	16日 18:30	第106回火山噴火予知連絡会による検討結果。火山活動はやや活発な状況。
	火山観測情報 第9号	19日 16:00	16日から19日15時までの活動状況。火山活動はやや活発な状況。
	火山観測情報 第10号	23日 14:00	19日から23日13時までの活動状況。火山活動はやや活発な状況。
	火山観測情報 第11号	26日 16:00	23日から26日15時までの活動状況。火山活動はやや活発な状況。
	三宅島	火山観測情報 第5～8号 (週1回発表)	2日、9日 16日、23日 16:30
霧島山	火山観測情報 第2号	5日 13:40	5日に振幅のやや大きな火山性微動が発生するなど、火山活動はやや活発な状況となった。レベルは2

全国の火山活動評価結果（2月28日現在）

（1）主な活火山（35火山）

最近の活動経過は、火山活動度レベル導入火山（ ）についてはレベル導入以降の、それ以外の火山（ ）については第101回火山噴火予知連絡会（平成17年6月21日開催）以降で最初に評価を明記した火山噴火予知連絡会開催日からの活動経過を示している。

（注）黒太字は平成19年2月に活動評価を変更した火山。

	火山名	火山活動評価	
		1月31日現在	最近の活動経過
北海道地方	雌阿寒岳	静穏な状況	平成17年6月21日 静穏 平成18年2月18日 やや活発 3月21日 【噴火】活発 6月12日 やや活発 8月25日 静穏
	十勝岳	静穏な状況	平成17年6月21日 やや活発 平成19年2月16日 静穏
	樽前山	やや活発な状況	平成17年6月21日 やや活発
	倶多楽	静穏な状況	平成18年2月28日 静穏
	有珠山	静穏な状況	平成17年6月21日 静穏
	北海道駒ヶ岳	静穏な状況	平成17年6月21日 静穏
	恵山	静穏な状況	平成17年11月2日 静穏
東北地方	岩手山	静穏な状況	平成17年6月21日 静穏
	秋田駒ヶ岳	静穏な状況	平成17年6月21日 静穏
	吾妻山	静穏な状況（レベル1）	平成17年2月1日 静穏（レベル1）
	安達太良山	静穏な状況	平成17年6月21日 静穏
	磐梯山	静穏な状況	平成17年6月21日 静穏
関東・中部地方及び伊豆小笠原諸島	那須岳	静穏な状況	平成17年6月21日 静穏
	草津白根山	静穏な状況（レベル1）	平成17年2月1日 静穏（レベル1）
	浅間山	静穏な状況（レベル1）	平成15年11月4日 やや活発（レベル2） 平成16年7月20日 静穏（レベル1） 7月31日 やや活発（レベル2） 9月1日 【噴火】活発（レベル3） 平成17年6月21日 やや活発（レベル2） 平成18年9月22日 静穏（レベル1）
	新潟焼山	静穏な状況	平成18年2月28日 静穏
	御嶽山	やや活発な状況	平成17年6月21日 静穏 平成19年1月19日 やや活発
	白山	静穏な状況	平成17年11月2日 静穏
	富士山	静穏な状況	平成17年6月21日 静穏
	箱根山	静穏な状況	平成18年11月14日 静穏
	伊豆東部火山群	静穏な状況	平成17年6月21日 静穏
	伊豆大島	静穏な状況（レベル1）	平成15年11月4日 静穏（レベル1）
	三宅島	やや活発な状況	平成17年6月21日 やや活発
	八丈島	静穏な状況	平成18年2月28日 静穏
	硫黄島	やや活発な状況	平成17年6月21日 静穏 平成19年1月9日 やや活発
	福岡ノ場	やや活発な状況	平成17年11月2日 やや活発

	火山名	火山活動評価	
		現在	最近の活動経過
九州地方・南西諸島	九重山	静穏な状況(レベル1)	平成17年2月1日 静穏(レベル1)
	阿蘇山	静穏な状況(レベル1)	平成15年11月4日 やや活発(レベル2) 平成16年1月14日 【噴火(土砂噴出)】 活発(レベル3) 2月13日 やや活発(レベル2) 平成17年4月14日 【噴火(土砂噴出)】 活発(レベル3) 5月13日 やや活発(レベル2) 平成18年1月20日 静穏(レベル1) 3月24日 やや活発(レベル2) 8月4日 静穏(レベル1)
	雲仙岳	静穏な状況(レベル1)	平成15年11月4日 静穏(レベル1)
	霧島山 (新燃岳)	静穏な状況(レベル1)	平成17年2月1日 静穏(レベル1) 平成18年2月1日 やや活発(レベル2) 5月22日 静穏(レベル1) 平成18年12月3日 やや活発(レベル2) 平成19年1月9日 静穏(レベル1)
	霧島山 (御鉢)	やや活発な状況(レベル2)	平成17年2月1日 やや活発(レベル2) 平成18年5月22日 静穏(レベル1) 平成19年2月5日 やや活発(レベル2)
	桜島	比較的静穏な噴火活動 (レベル2)	平成15年11月4日 比較的静穏な噴火活動 (レベル2) 平成18年6月12日 【昭和火口から噴火】 活発(レベル3) 8月18日 比較的静穏な噴火活動 (レベル2)
	薩摩硫黄島	やや活発な状況(レベル2)	平成17年2月1日 やや活発(レベル2)
	口永良部島	やや活発な状況(レベル2)	平成17年2月1日 やや活発(レベル2)
	諏訪之瀬島	活発な状況(レベル3)	平成17年2月1日 【噴火継続】 活発(レベル3)
	硫黄島	静穏な状況	平成19年2月16日 静穏

(2) その他の活火山(50火山)

以下の活火山では、いずれも火山活動は静穏な状況である。

	火山名
北海道地方	知床硫黄山、羅臼岳、摩周、アトサヌプリ、丸山、大雪山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、渡島大島
東北地方	恐山、岩木山、八甲田山、十和田、秋田焼山、八幡平、鳥海山、栗駒山、鳴子、肘折、蔵王山、沼沢、燧ヶ岳
関東・中部地方 及び伊豆・小笠原諸島	高原山、日光白根山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、焼岳、アカンダナ山、乗鞍岳、利島、新島、神津島、御蔵島、青ヶ島
中国・九州地方 及び南西諸島	三瓶山、阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島

世界の主な火山活動

平成 19 年（2007 年）2 月に噴火の報告された主な火山（日本を除く）は下図のとおりである。
このうち、顕著な活動が見られた主な火山は以下のとおりである。

ツングラグア（エクアドル）（図中A）

23 日に振幅がやや大きく継続時間の長い火山性微動が発生した。24 日に火山性微動の振幅が次第に大きくなり、噴火が開始した。噴煙高度は最高で火口縁上 7,000m に達し、火口から 1 km の範囲に噴石が飛散した。この噴火により、火口から北西～西側の約 8 km の範囲で降灰が観測された。

その後も噴火が時々発生するなど、火山活動は活発な状況が続いている。

（以上、米国スミソニアン自然史博物館の G V P（Global Volcanism Program）による。日付は全て現地時間。火山名の読み方は、原則として気象庁：「火山観測指針（参考編）」による。）

